



# 運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和8年9月号 第239号

(令和8年9月30日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール [tou-asu@netjoy.ne.jp](mailto:tou-asu@netjoy.ne.jp)

## ◆令和8年度 東京都生活学校連絡協議会施設見学会の開催

### ●環境と人にやさしい最先端のリサイクル現場を訪ねて

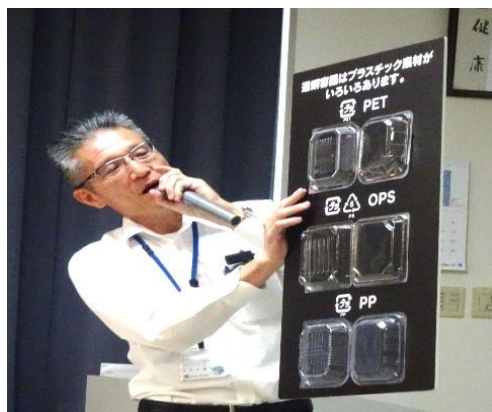
令和8年8月25日(火)、東京都生活学校連絡協議会による恒例の施設見学会が開催されました。当日は厳しい猛暑に見舞われた1日となりましたが、参加者一同、期待を胸に茨城県結城郡にある「エフピコ 関東リサイクル工場」へと向かいました。本協議会では、環境問題への取り組みの一環として、一昨年は、(株)ハイパーサイクルシステムズ(家電リサイクル)を、昨年は、横須賀市リサイクルセンター「アイクル」を見学し、毎年、リサイクルの最前線を学んできました。今年度お邪魔したエフピコも、スーパーの食品売り場で見かける生鮮食料品や惣菜、お弁当などのエコトレーやエコプラスチック容器を製造する国内トップクラスのメーカーです。

過去にはテレビ番組「がっちりマンデー!!」でもその優れた製品力や独自のビジネスモデルが紹介され、大きな注目を集めました。



### ●全員参加で回す「トレー to トレー」の画期的な仕組み

到着後、まずは会議室にて会社概要とともに、①発泡スチロール製食品トレー、②透明容器、③PETボトルの3つのリサイクル事業について詳しい説明を受けました。同社が発泡スチロールのリサイクルに乗り出したきっかけは、1990年代に社会問題となった発泡スチロール容器のごみ問題だったそうです。そこから1992年に再生トレーである「エコトレー」を発売。2008年には透明容器、2011年にはPETボトルのリサイクルへと、時代のニーズに合わせて進化を続けてきました。エフピコのリサイクルは、「使う人(消費者)」「売る人(スーパー)」「運ぶ人(問屋)」「作る人(エフピコ)」の4者が一体となって資源を循環させる仕組みです。なかでも参加者の感心を誘ったのは、商品を納品した「包材問屋」のトラックが、帰りの便を利用してスーパーの店頭回収ボックス等から使用済みトレーを回収している点です。これにより、無駄な二酸化炭素の排出を抑え、物流経費の大幅な削減も実現しているという、まさに効率的なシステムでした。



説明の後には、いよいよ発泡スチロール製食品トレーのリサイクル工場へ向かいました。工場内を見てまず驚かされたのは、最先端の機械が並ぶなかでも、「人の手による選別」が極めて重要な役割を果たしている点でした。回収されたトレーは、①再利用できる白色トレー、②再利用できる色付きトレー、③再利用できないトレーや異物（シールやゴミなど）へと、熟練の作業員によって仕分けられていきます。その後、細かな異物を落とし、破碎、2回の入念な洗浄、すすぎ、脱水を経て、再びトレーの原料となる「ペレット」へと生まれ変わる一連のダイナミックな工程を目の当たりにしました。さらに胸を打たれたのは、この重要な選別作業などで多くの障害者の方が活躍されているという事実です。同社における障害者雇用率は、なんと法定雇用率を大きく上回る12.5%に達しているとのこと。環境保全への貢献だけでなく、誰もが生き生きと働ける社会づくりにも真摯に取り組む会社でした。



## ●見学を終えて

工場内は最先端の設備が整っているだけでなく、ゴミを扱う場所とは思えないほど非常に清潔で美しく保たれていました。今回の見学会は、私たちが日頃何気なく捨ててしまいがちな食品トレーが、多くの人の手と知恵によって貴重な資源へと生まれ変わる現場を体感する、有意義な機会となりました。

最後になりますが、今回の見学を快く受け入れ、猛暑のなか丁寧にご案内いただきましたエフピコ関東リサイクル工場の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。昼食は、「古河 旬おかさ」とさんで釜めしコースをいただきました。ボリューム・味共にとても満足いたしました。参加いただいた皆様、暑い中、お疲れ様でした(参加者数18名)。



(東創協のホームページのQRコードです)